

2019. 11. 22

第2回地域の気候変動適応推進に向けた意見交換会



茨城県

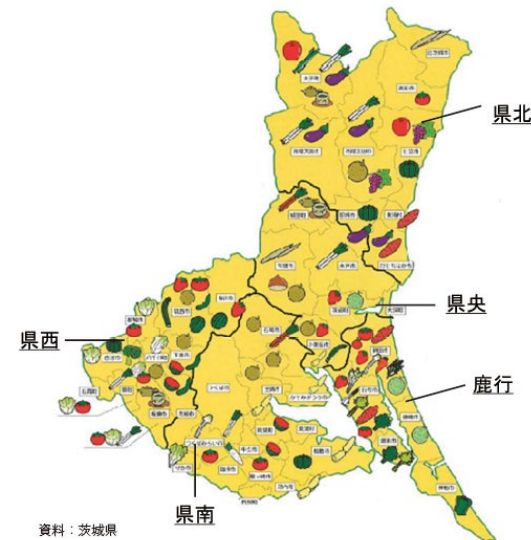
# 茨城県地域気候変動適応センター

茨城大学  
田村 誠

# 茨城県の特徴

- 人口287万(2019.4.1)<=298.5万人(2000.10.1)
- 首都圏近接
- 農業生産額2-3位
- かつては災害の少ない県という認識
  - 2011東日本大震災、2015関東東北豪雨、2019台風19号等
- 都道府県魅力度ランキング7年連続最下位(2019.10)
  - 何でもあるけど特徴が無い？

図1 茨城県の青果物産地マップ

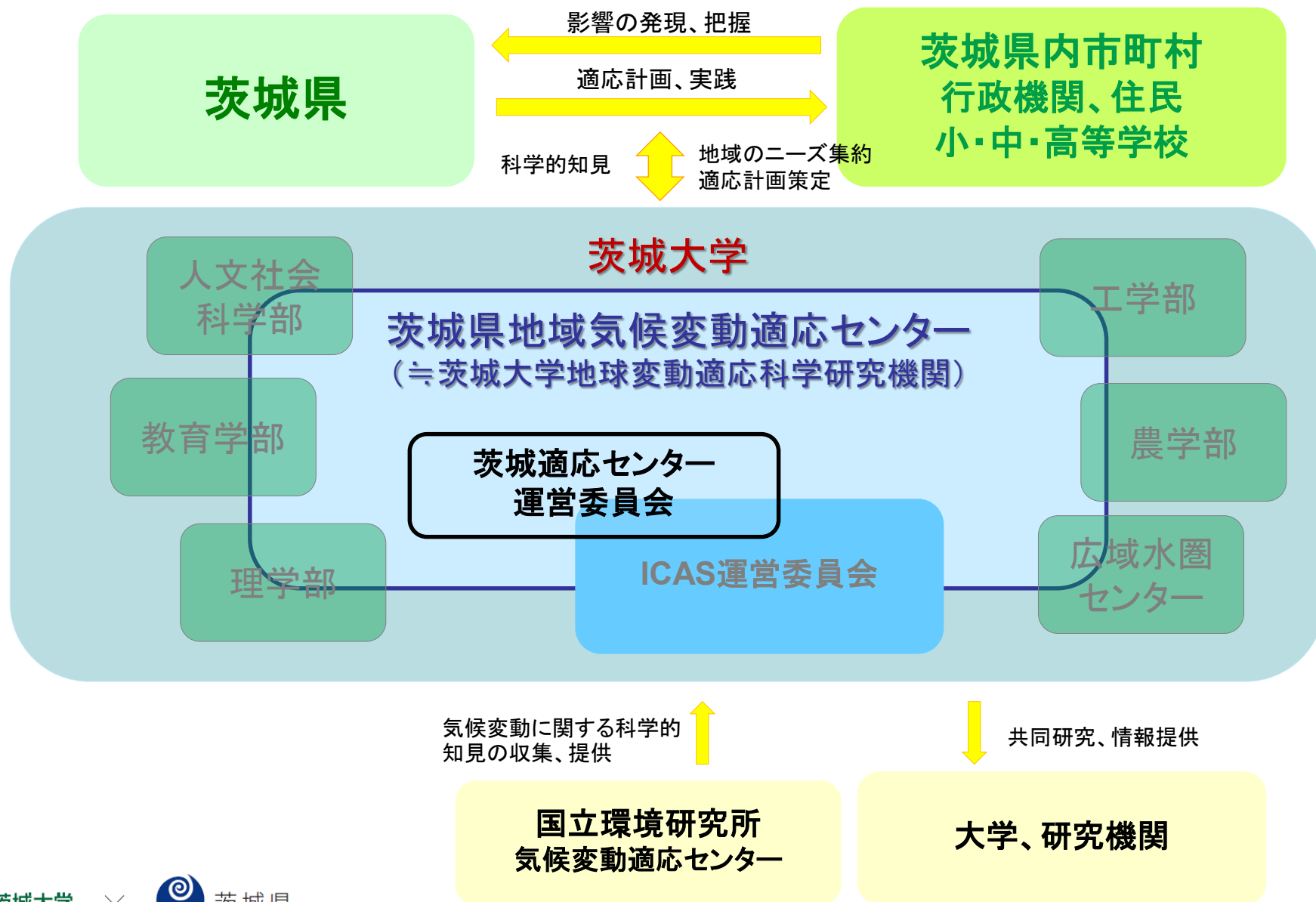


# 適応センター設置の経緯

- 2019.4.1 大学としては初となる地域気候変動適応センターの設置
- 茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)での研究蓄積
  - 環境研究総合推進費S-4(2005-09)、S-8(2010-14)、S-14(2015-19)、文科省RECCA(2010-14)、SI-CAT(2015-19)等
- 気候変動適応法を受けて、茨城県との相談(特に環境政策課)。公募に応募し選定される
  - 気候変動適応法第13 条
- 2017.3 県地球温暖化実行計画
  - 2019.1 適応計画へ位置づけ



# 茨城県地域気候変動適応センターの体制



# 茨城県地域気候変動適応センターの事業

## 気候変動影響、適応評価

茨城県下の気候変動、温暖化予測を行い、それらによる水環境・農業・漁業・防災等へのリスクや影響、対策を検討する。

## 気候変動影響に関するローカル情報の収集・検討

茨城県下で農業や漁業等に関わる人たちが気候変動・温暖化をどう捉えているか、実際に起こっている現象について把握するとともに、既に実践されている適応策を収集し、応用可能性について検討する。

## 自治体適応策策定支援

影響評価で得られた結果を自治体に提示し、影響評価の精度検証、追加データの収集、優先順位などを協議して、各自治体の事情に応じた適応策策定を支援する。

## 公開講座、防災教育、人材育成

市民向けの公開講座、防災教育ワークショップなどを行うとともに、「適応」に関する知識を備えて普及啓発に関われる地域人材の育成・ネットワーク化を図る。

# これまでの取組、今後の取組

- 気候変動影響予測、適応評価
  - ①農業、漁業、林業、②降雨、水害、都市域氾濫、③水環境、④海岸・海洋環境、⑤生態系、霞ヶ浦
- 2019環境省国民参加事業(後述)
- 行政への適応計画策定支援、公開講座
  - WS、公開講座を通じた普及啓発、情報共有
    - 県南生涯学習センター県民大学「+2℃の世界」(5回)
    - 茨城エコ・カレッジ:体験コース、職域コース
    - 10/9 豪雨情報WS
  - 市町村への計画策定支援
    - 土浦市温暖化実行計画の改定支援(2019年度末策定予定)

# 国民参加による気候変動情報収集・分析事業

- 大学教育と連動した調査、学生の関与
- 漁業関係者
  - 大洗町等でのインタビュー調査
- 農業従事者
  - 大学院サステナ教育「国内実践教育演習」と連動
  - 常総市農家インタビュー・アンケート
    - アンケート調査: 11月配布予定が台風19号豪雨水害を受け待機。12月配布に決定し、常総市全農家5000戸弱へ配布。
- 茨城町、つくば市等での圃場モニタリング
- 小中学校理科教員等へのインタビュー、アンケート
- シンポジウム、ワークショップ
  - 6/28 設立記念シンポジウムでのアンケート
  - 10/9 豪雨災害対策ワークショップ



# イベント、アウトリーチ

## ④ 地球温暖化がもたらす「+2℃の世界」～緩和と適応、私たちには何ができるのか～

曜日 金曜日 時間 14:00 ~ 16:00 回数 5回 受講料 ¥3,000

日本では、地球温暖化に伴う農作物被害や気象災害などを軽減するため、その対策を後押しする『気候変動適応法』が2018年12月に施行されています。これからはじわりと進むであろう温暖化は、私たちの社会や文化にまでも影響を及ぼしてくることが予想されます。本講座では、最先端の科学的知見に基づき多角的に考え、理解を深めます。

※ 本講座は毎日新聞と茨城大学 I CAS のコラボに基づき実施するものです。



講師

①-⑤ 茨城大学 教授 伊藤 哲司 ⑥ 農林・食品産業技術総合研究機構 河本 貴弘  
① 茨城大学 准教授 田村 誠 ⑥ 国土環境研究所  
② 茨城大学 准教授 若月 泰孝 ⑥ 龍山 康子

- ① 6/14 気候変動影響と適応策・緩和策
- ② 6/28 気象学から見た温暖化のメカニズムと豪雨災害
- ③ 7/12 茨城県のお米の収量と品質への影響と適応
- ④ 7/26 気候変動に関する国際交渉の歩み
- ⑤ 8/9 温暖化は私たちの社会に何をもたらすのか



茨城  
エコ・カレッジ2019  
(体験コース)

# 受講生募集

2019年6月29日(土)~9月7日(土)

環境問題についての興味を持ち、環境保全活動を通して実践するリーダーを養成するため、茨城エコ・カレッジを開催します。

地球、地域、そして生活や人間関係の関わりとこれに対する適応策について、

大学教員による講義と、NPO法人等(環境団体)のフィールドワークを通じて学び、考えよう。

会場

【講義】

茨城大学 (水戸市文京2-1-1)

【フィールドワーク】

NPO法人等

活動場所(鹿ケ崎市、土浦市、茨城町)

定員 100名(先着順) 受講費無料

■受講資格: 茨城県内に在住している方、又は通学・通学している方  
■申 込: 茨城大学リカレント教育プログラム・公開講座ホームページ内、専用フォーム(専門コース・茨城エコ・カレッジ)よりお申込みください。(http://koukai.soc.ibaraki.ac.jp/)

■応募締切: 7月4日(木)

■問合せ先: 茨城大学社会連携センター 029-228-8413

主催: 茨城県・茨城大学

協力: 茨城県地域気候変動適応センター



2019年度

## エコ・カレッジ(職域コース)受講者募集

エコ・カレッジ職域コースとは

事業所の環境管理や公害防止及び廃棄物の巨担者、環境CSRやエネルギーのマネジメントに従事される方々を対象に、最新の環境情報の提供、共通テーマについての研究・討議、有識者と最先端技術企業からの事例発表など、研修を通じて知識の習得を図り、環境に配慮した事業活動の推進に役立てることを目的に実施しています。

本年度カリキュラムの特徴は「より広く・より深く・より新しく」です

- 【第1回】開講式 / 地球温暖化や環境保全に向けた講演
- 【第2回】気候変動の影響と適応策
- 【第3回】産業廃棄物の基礎と低炭素社会の創造
- 【第4回】産業廃棄物発生(持続可能な社会と企業活動→SDGsの実現に向けて)
  - ・PART 1 SDGs 目標達成に向けたビジネス
  - ・PART 2 我が国がかかえる諸問題とSDGsの取組
- 【第5回】最新の環境CSR事業所を視察
- 【第6回】最新の環境情報
- 【第7回】地球温暖化防止活動推進員として / 閉講式

講 師・・・修了された受講生のニーズに沿って企業、大学、研究機関、国の行政関係者などから時代をリードする専門講師を選出。各講師と時間をかけながら協議を繰り返して講座開催をしています。

情報交換・・・環境に関する最新の情報を伝え、また、講座とワークショップを繰り返すことで、講師と参加者の情報交換の場として有効に活用されています。

特 典・・・1 受講修了後、希望者は茨城県地球温暖化防止活動推進員として茨城県知事から委嘱されます。(茨城県地球温暖化防止活動推進員には、国や地域の温暖化防止に関するニュース、各地で開催される環境フェスタ等の案内、環境並びに温暖化防止研修会等の案内通知が届きます。)

2 修了者は次年度以降の職域アドバンコースを受講することが可能となります。

※茨城県地球温暖化防止活動推進員とは、地域において、地球温暖化の低炭素社会の実現に向けた、知識の普及と具体的な活動を推進するため、地球温暖化防止活動の推進に資する品性(年齢 27歳以下)に基づき、茨城県知事から委嘱されます。

2019年度の日程

第1回 開講式 6月下旬(予定) 茨城大学水戸合同庁舎	① 10:00~12:00 ② 13:00~14:00	① オリエンテーション等 ② 地球温暖化や環境保全に向けた講演
第2回 7/26(金) 材料(水戸) 水戸(第1回F・A)	① 10:00~12:30 ② 13:40~16:30	<p>&lt;テーマ:気候変動の影響と適応策&gt;</p> <p>①「気候変動適応センターとしての役割」 気候変動適応センター 副センター長 長瀬明男 氏 「光を活用したエコな防災技術」 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 水質技術研究Ⅱ上級主任研究員 伊藤信彰 氏</p> <p>②「緩和策から適応策へ地域研究機関としての行動」 茨城大学地球変動適応科学研究機関 副機関長/准教授 田村 誠 氏 「省エネルギーコスト削減対策コンサルティングの事例」 一般社団法人エコファーム推進機構 理事 大谷木 亘 氏</p>

## 茨城豪雨災害対策ワークショップ (第3回 豪雨災害に関する情報交換会(茨城))

豪雨は様々な水災害を引き起こします。茨城県でも、平成27年9月関東・東北豪雨などの水害を経験しました。地球温暖化によって、将来的に豪雨災害のリスクが高まることが予想されています。豪雨の諸問題と被災に資する対策のために、地域レベルで情報交換を行い、問題の重要性を共有し、協力して対策する必要性が求められています。今回、茨城大学・防災科学技術研究所・茨城県などが連携し、茨城県での豪雨とその対策に関して、課題や解決策を議論するためのワークショップを企画しました。自治体、研究者、豪雨災害に関わっている方、豪雨災害対策に強い関心のある学生等のご参加とご議論を期待いたします。特に今回は、防災行政に関わる茨城県内の市町村の方に多数ご参加いただければと思います。なお、本イベントは一般向けの講演会ではありません。

日時 2019年10月9日(水) 10時30分~17時

場所 茨城大学水戸キャンパス 図書館ライブラリーホール

プログラム

1. 趣旨説明 若月泰孝(茨城大学理工学研究所(理学野)・海洋研究開発機構)
2. 基調講演 近藤誠司(関西大学)  
いのちを守るためのポジティブ情報活用術。～ラストフタマイル問題を克服する～  
須賀英樹(茨城県新治市根新町内会事務局)  
地域コミュニティを命を救う。ITを活用した災害に強いまちづくり
3. 自治体参加者の自己紹介(各自自治体の豪雨災害における防災対策と課題の紹介)  
(昼食) ポスターセッション
4. グループワーク(ワールドカフェ形式)  
テーマ1: 突発豪雨の際、適切な避難判断と情報伝達ができるか?  
テーマ2: 訓練と住民の意識レベル向上のために  
テーマ3: 発災後の迅速な体制づくりのためには
5. グループワーク発表
6. 総合討論(リネリスディスカッション)  
茨城大学、防災科学技術研究所、茨城県、常総市、気象庁他
7. 閉会挨拶 白田 裕一郎(防災科学技術研究所)

懇親会(一部ポスター掲示あり)



主な参加機関(予定)

茨城県内市町村  
茨城大学、茨城県、防災科学技術研究所、気象庁や地方気象台、国土交通省関東地方整備局、民間企業、ほか

主催: 茨城大学 地球変動適応科学研究機関、茨城県地域気候変動適応センター  
共催: 防災科学技術研究所、後援: 茨城県  
問い合わせ・参加申し込み: 茨城大学(准教授) 若月泰孝  
Email: yasutaka.wakazuki@vc.ibaraki.ac.jp TEL: 029-228-8390  
★イベントの参加には必ず事前申し込みが必要ですが、  
(氏名・所属・メールアドレス・電話番号を記入し、メールで申し込んでください)  
★取材の場合も事前にご連絡ください。



# 適応センター設置のメリット

- 気候変動適応が研究から実践へ
- 気候変動適応の認知度向上
- 大学と県、市町村の連携体制の強化
  - 大学と県、市町村の一部はかつてより連携協定があるが、一層の拡充
  - 県庁内の横断。県庁連絡会議(2019.5)等
  - 市町村の適応計画策定相談
- 茨城大学の社会的役割(≡社会の公器)、PR

# 適応センターの運営等での課題

- 大学が行政機関的役割を担うことへの挑戦
  - 研究、教育＋行政
- 人手不足
- 財源不足
- 令和元年台風19号豪雨水害への対応
  - 「茨城大学令和元年度台風19号災害調査団」の結成